

和ん話んタイムズ

No. 18

2012.10.12

NPO 法人
ここ掘れ和ん話ん探検隊

小国町からの委託事業

「森林体験観光推進業務」順調に！ 好評で！ 進んでいます！！

今年度、小国町から委託されて行っている「森林体験観光推進業務」は、計画された業務の半分が終了しました。各イベントとも好評で、県外からの参加者も増えてきています。

● 8月・9月に実施したもの

8月 4日（土） 第2回の越後米沢街道・十三峠トレッキングモニターツアー

8月 7日（火） ナイトスターツアー（共催）

8月11日（土） 森林セラピーモニターツアー（サマー編）

9月14日（金） 森林（もり）の中学校

9月22日（土） ツリーイング

ツリーイングの報告です

ツリーイング(“Tree+ing”)*****

ロープを高い木にかけツリーハーネス（安全ベルト）をつなげて登り、木の上の世界を楽しむアウトドアレジャー。

ツリーイングには、①木に登る（安全で楽しい木登りの技術を伝える） ②木から学ぶ（木と人との関わりを学ぶ） ③お互いに共有する（自然とのつながりを感じる）という意味が込められています。まだ馴染みの薄いツリーイングですが、今回の業務の中で企画・実施しました。

ツリーイングの指導者は、山形県内でも極少数ということで、県外からも指導者を依頼し、4人の指導者が2回の現地視察を経ての実施となりました。

心配された降雨もなく、絶好のイベント日和となった健康の森「よこね」のキャンプ場周辺の大きなブナの林。7組の家族連れを含めて31人の参加者でした。

はじめに、ツリーイングについての説明や登り方の指導を受けたあと、ヘルメットやハーネスを着用し、高さ15mの枝にかけたロープを登った。家族同士が同じ木にかけたロープを登り、途中では登り方を教えあったり、最上部に着くと、木の上からの初めての景色に大きな歓声をあげていた。上に登り、鳥気分に入ったまま下りようとしないうお母さん、自分の体重を思い知ったお父さんもいました。



午後からは、近くをトレッキングしていた福島県からの避難者一行15人も参加し、感動したようでした。

このレジャー、山に囲まれて、ブナの大木も多く、実施できる場所には困らない、好条件の小国町でこそ普及させてほしいものの一つである。できる場所ややりたい人は多いと思われるが、指導者がいないこと、経費（結構大きいという）のことが難問らしいが、小国町がツリーイングのメッカになるくらいの意気込みを期待したい。

第10回萱野峠敷石惚れ掘れ探検隊

越後米沢街道・十三峠のうちの一つ、萱野峠には敷石が埋もれていることが確認されています。この敷石を地域の宝ものとして活用することとし、平成19年から「敷石惚れ掘れ探検隊」と名づけた敷石掘り起こしのイベントを行ってきました。今年は、9月29日（土）に第10回目がおこなわれました。

毎回、宮城・福島・新潟県などからの参加もあり、好評を得てきました。特に、地元のお母さんたちによる山菜料理と雑穀おにぎりに魅了され惚れてしまった人は少なくありません。

玉川コミセン前で行われた開会式には盛田新町長も駆けつけてくださりあいさつをいただきました。

事前に決めてあった掘り起こし箇所3ヶ所、数年前に掘り起こした箇所の整備（落ち葉の除去・除草）1ヶ所で実施しました。

今までに掘り起こした所の敷石は小さい石をモザイク状に敷き詰めた箇所がほとんどでしたが、今回は人工的に直方体に切り出された石がきれいに敷かれたものも掘り起されました。ある人曰く『黒沢峠の敷石にも負けないぞ！』。周りのブナ林ともマッチした景観となっており、訪れる人の目を引く石畳となりそう。

この日に掘り起した距離54m、初回からの合計と小学生等の作業により敷石が姿を現した距離は890mになった。



大きく美しい石畳



掘り起し作業のあとは、コミセンで恒例の昼食会。お母さんたちの手作りの郷土食（山菜・朴葉に包んだ雑穀おにぎり・みそ汁など）に舌鼓を打ち、参加者からの感想を述べてもらった。『感動した。きれいな石畳が現れ嬉しかった。また参加したい』など、好感の言葉が多かった。



思わぬ収穫？

午後は、希望により、①木工クラフト体験 ②大里峠頂上までのトレッキングを楽しんだ。

遠方からの参加者は、天狗平ロッジに宿泊しての交流会、翌日は泡の湯温泉の初代主人舟山鐵四郎爺から三好荘の歴史の話を聞かせていただいた。

黒澤と萱野の峠 競ひ愛へ
人は言ふを 峠良きがね
かがみ まさあき 詠